

学 年

低

おはなしを、いいかんじでかんせいさせよう！

年 組 氏名



☆おはなしの中にでてくる「かんじ」をかいて、おはなしをかんせいさせましょう。

した。 き き き き
 がつくと、あつというまに、 ひやくねん ひやくねん ひやくねん ひやくねん
 たったとき。

から、 ゆう ゆう ゆう ゆう
 がたの ひ ひ ひ ひ
 がくれるまで、 はな はな はな はな
 を み み み み
 ていま

ようでした。 おとおとこ おとおとこ おとおとこ おとおとこ
 は、 はな はな はな はな
 が だい だい だい だい
 すきで、あさ はや はや はや はや
 く

な くさ くさ くさ くさ
 が おとおとこ おとおとこ おとおとこ おとおとこ
 さきます。 はな はな はな はな
 それはまるで、お はな はな はな はな
 ばたけ はな はな はな はな
 の

もり もり もり もり
 と はやし はやし はやし はやし
 にかこまれていて、春には はる はる はる はる
 いろいろ

ひとり ひとり ひとり ひとり
 の おとおとこ おとおとこ おとおとこ おとおとこ
 が おとおとこ おとおとこ おとおとこ おとおとこ
 すんでいました。 おとおとこ おとおとこ おとおとこ おとおとこ
 その やま やま やま やま
 は、

くち くち くち くち
 が あか あか あか あか
 くて せんねん せんねん せんねん せんねん
 の おとお おとお おとお おとお
 むかし、ある て て て て
 のながい やま やま やま やま
 に、



学 年
低

おはなしを、いいかんじでかんせいさせよう！

年 組 氏名



☆おはなしの中にでてくる「かんじ」をかいて、おはなしをかんせいさせましょう。

むかしむかし 千年の 大むかし、ある 山に、
 口が赤くて目が青く、手足のながい
 一人の大男がすんでいました。その山
 は、森と林にかこまれていて、春にはいろいろ
 な草花がさきます。それはまるで、お花畑の
 ようでした。大男は、花が大すきで、あさ早く
 から、夕がたの日は、花を見ているま
 した。気がつくとき、あつというまに、百年たつたとさ。



学 年
低

お話を、いいかんじで、かんせいさせよう！ 2

年 組 氏名



☆お話の中に出てくる「かんじ」を書いて、お話をかんせいさせましょう。

[]^{した} でした。
 []^{はる} も []^{なつ} も []^{あき} も []^{ふゆ} も []^{よる} も []^{ひる} も、ずっと []^よ 人は
 []^{しくて、}
 []^ふ []^ぼ の []^じ まんの []^こ どもたちだったとき。
 []^{ばんめ} の []^{おとうと} は、 []^{きょうしつ} で []^{ほん} を []^よ んだり []^{かんが} えることがすき
 []^{くろ} い []^め をしていて、 []^{あか} るい笑 []^{えがお} の []^{おんな} の []^こ でした。
 []^{ばん} []^め []^{くろ} い []^め をしていて、 []^{あか} るい笑 []^{えがお} の []^{おんな} の []^こ でした。
 []^め の []^{あね} は、 []^{こめ} や []^{むぎ} を []^{つく} ることが []^{じょうず} で、 []^{とり} と []^{はなし} を
 []^せ 背が []^{たか} く、 []^{はし} ることが []^{うま} よりもはやかったそうです。
 []^{きょうだい} []^し []^{まい} がおりました。
 []^{いちばん} []^{うえ} の []^{あに} は、 []^{ほそ} くて
 []^{むかしむかし、ある} []^く に、それはそれは []^{こころ} がきれいな []^よ 人の



学 年

低

お話を、いいかんじでかんせいさせよう！ 2

年 組 氏名



☆お話の中に出てくる「かんじ」を書いて、お話をかんせいさせましょう。

むかしむかし、ある国に、それはそれは心がきれいな四人の

兄弟 姉妹 がおりました。 一番上の 兄 は、細くて

背が高く、 走ることが馬よりもはやかったそうです。 二番

目の姉は、米や麦を作ることが上手で、鳥と話

することができました。 三番目の妹は、星のように光る

黒い目をしていて、明るい笑顔の女の子でした。

四番目の弟は、教室で本を読んだり考えることがすき

でした。 春も夏も秋も冬も夜も昼も、ずっと四人は

親しくて、父母の自まんの子どもたちだったとき。

